此最後ノ點ニ關シテハ當夜「ランシング」國務卿ハ何等言及シタ譯デハ無カツタノダガ、米國側デ支那ノ暴論ヲ支援シ、其氣焰ヲ煽ツテ居ルカラ、之レニ言及シタノデ更ニ珍田全權ハ支那委員ガ一意日本ノ讒誣排擠ニ腐心セル事實ヲ詳述シ、山東問題ガ我威嚴榮辱ニ關スル重大問題トナツタ事由ヲ說示シ、本件ノ滿足ナ解決ヲ含マヌ平和條約ニハ調印不可能ノ所以ヲ聲明シテ、米國側ノ反省ヲ促シタ。

第三十章　講和會議ニ於ケル山東問題（三）

四月二十九日午前十一時カラ開カレル首相會議デ更ニ山東問題ガ討究サレルコトニナツタカ、其前ニ懇談シタイト「ウヰルソン」大統領カラ申込ミガアツタノデ、牧野珍田兩全權ハ十時ニ往訪シタラ、大統領ハ日本ハ州灣租借地ニ於ケル獨逸ノ租借權其他ヲ支那ニ還附シ、只居留地ヲ留保スルノミデ、又租借地以外デハ經濟的特權ヲ取得スル丈ケダト了解シテ良イノカト聞タカラ、大體其通リダト答ヘタラ、大統領ハ然ラバ青島及濟南ニ日本軍ヲ置クコト及支那警察ニ日本ノ顧問ヲ置クコトヲ强制スル權ヲ取得シタノハドウナルノダト反問シタノデ、我全權カラ日本軍ノ駐屯ハ戰時占領ニ基ク權利デアル。從ツテ講和ガ成立シ租借地ヲ還附スル上ハ右軍隊ガ撤退スルノハ其性質上當然ノコトダト答ヘタ。大統領ハ警察問題ハ租借地以外ニ亘ツテ居リ獨逸ガ持ツテ居ナカツタ權利デ、又經濟的ノ權利デモ無イカラ支那ノ主權ニ影響スルト、述ベテ强硬ニ反對シ所謂二十一個條要求ニ基ク日支條約ハ之レヲ認メザル趣旨サエ仄カシタカラ、我全權ハ警察教官ノ問題ハ何等支那ノ主權ヲ害スルモノデハ無イ。單ニ支那警察訓練補助ニ止マリ、鐵道ノ安全ヲ保護スル爲メニハ諸般ノ關係上教官又ハ顧問ヲ、支那鐵道警察ニ入レテ置ク必要ノアルコトヲ說明シタ、大統領ハ鐵道ニ付テハ日支ノ共同管理ト成ルベキ筈ノ處、警察ニ付テハ日本ニ一種ノ管理權ヲ與ヘルモノデ、是レハ支那ノ主權侵

四月二十九日三十日ノ首相會議

害ダト繰返シタカラ、我方カラ支那デハ中央政府ニスラ顧問ヲ入レルコトハ澤山例ガ在ルガ、未ダ之レガ爲メニ主權侵害ノ非難ヲ聞イタコトハ無イト反駁シ、大統領ハ顧問教官ニ付テハ近年獨逸ガ土耳其軍隊ニ多數ノ獨逸教官ヲ入レテ實權ヲ握リ、土耳其ヲ意ノ儘ニシタト同樣ノ印象ヲ世界ニ與ヘルモノデ、米國ノ輿論ニ鑑ミ沈默ヲ守ツテ居ルコトハ出來ヌト述ベタ。

此時「クレマンソー」、「ロイド、ジョオージ」兩首相及「バルフオア」外相ガ來會シタノデ、大統領ハ前記會談ノ要領ヲ說明シ、引續イテ鐵道警察問題ヲ長時間論議シタガ、「ウキルソン」大統領主張ノ要點ヲ摘記スレバ、大正七年日支取極第四項「日本國人ヲ右巡警隊本部及樞要驛並巡警養成所ニ聘用スルコト」ナル規定ハ、獨逸ガ持ツテ居タ權利以上ノモノデ、支那ノ主權侵害デアル、獨逸ノ權利丈ケノ繼承ヲ日本ニ認メルノナラ、米國ノ輿論ニ言譯モ立ツカ、夫レ以上ノ權利ヲ認メテハ辯解ノ餘地ガ無イ、ト云フニ歸着スル。我全權カラ獨逸ハ實際右取極以上ノ事ヲシテ居タノダト幾ラ說明シテモ、夫レハ單ナル事實ニ過ギヌカラ支那ノ故障ガアツタラ變更ノ餘地ガアル、權利トシテ其存續ヲ保障サセル日支取極トハ大ナル違ヒタト如何ニモ尤モラシク見ヘル理窟ヲ列ベタガ、支那ガ獨逸ニ口ヲ聞クコトノ出來ヌ位ハ何人ニモ判リキツテ居ルカラ、事實ニ卽セヌ僻論ヲ敢テシテ橫車ヲ押シテ居ルニ過ギヌ。結局「ウ」大統領ノ云フ所ヲ煎ジ詰メレバ大正四年ノ我希望條項中ニ在ツタ警察合辨又ハ日本人傭聘ノ要求ニ關スル記憶ヲ米國人ニ呼ビ起ス右條項ヲ何トカシテ貫ハヌト、自分ノ立場トシテ承諾スルノニ困ルト云フニアル。

「クレマンソー」首相ハ終始論議ノ圈外ニ立ツタガ、「ロイド、ジョオージ」首相ハ米國ノ立場ハ白紙ナレド

英國ハ日本ト約束ガ在ルカラ、何ントカ之レヲ纏メタイト述ベ、英國デハ鐵道又ハ「ドック」デ其警察ガ會社ノ手ニ在ル例ガ乏シクナイ、此警察ハ會社ノ取締役ノ手ニ任カシテ在ツテ、之レガ爲メニ英國ノ主權ガ害サレタト云フ非難ハ聞カヌ、夫レ故本件鐵道警察モ會社取締役ノ手ニ歸セシメ、支那亦右警察組織ニ參加スルコトトシ、日本ノ教官ノ使用選定モ會社重役ニ委ネテハ如何、斯クスレバ日本モ其欲スル所ヲ得、支那ノ面目モ立ツダロウト發議シタ。

右ノ動議ハ日支取極ノ條項ヲ變更スルモノデナク、單ニ其解釋ト手續ノ問題ニ過ギヌト思ハレタカラ、我全權ハ此趣意ノ下ニ之レニ同意シ、更ニ意見交換後「バルフオア」外相ハ左ノ如キ提案ヲシタ。

一、日本ノ聲明セル政策ハ速ニ山東半島ノ主權ヲ支那ニ還附シ、獨逸ノ有スル經濟的特權ノミヲ保有スルニアリ。

二、鐵道警察ニ關スル條項ノ趣旨ハ、單ニ鐵道所有者ニ對シ運輸ノ保障ヲ與フルニアリ、同警察ハ何等他ノ目的ノ爲メニ使用セラルルコトナシ。

三、鐵道警察補助ノ爲メ必要ナルベキ日本ノ教習ハ、會社ニ於テ之レヲ選定スルヲ得。

「ウキルソン」大統領ハ左記ノ自案ヲ示シ、尙ホ「バ」外相案二及三ト自己ノ案トヲ併合センコトヲ希望スルト同時ニ、是等宣言ヲ發表センコトヲ求メタ。

支那ニ一切ノ主權ヲ還附シ、鐵道並ニ鑛山ニ關スル特權享有者ノ經濟上ノ權利ノミ保有シ、併セテ靑島ニ於ケル獨占的ナラザル居留地ヲ設クル特權ヲ保有ス。

牧野珍田兩全權ハ斯ル宣言ヲ爲スニ不同意ヲ唱ヘタ所、「バ」外相カラ單ニ誤解ヲ防グノ趣旨デ新聞記者トノ會見談トシテ發表シテハドウダト述ベ、「ウ」大統領モ之レニ同意シタノデ、我方デハ熟考スルコトトシテ當日ノ討議ヲ終ツタ。

我代表部ハ本件ヲ愼重講究ノ結果「バ」外相案ヲ基礎トスル左記ノ如キ案ナラ、之レヲ日支條約取極ノ解釋トシテ、首相會議ノ席上米英佛側ノ質問ニ對シ我方ノ與ヘタ回答ノ形式デ、新聞記者トノ會見談トシテ發表スルニ異存ハナイガ、之レガ爲メ日支條約及取極ハ毫モ影響ヲ受ケルモノデナイコトヲ前提トスルト「バルフオア」氏ニ言ヒ送ツタ。

一、日本ノ聲明セル政策ハ、山東半島ノ完全ナル主權ヲ支那ニ還附シ、獨逸ノ有セル經濟上ノ特權並ニ青島ニ於ケル日本居留地設定ノ權利ノミヲ保有スルモノトス。

二、鐵道警察ニ關スル條項ノ趣旨ハ、單ニ鐵道ノ所有者ニ對シ送輸ニ關スル保障ヲ與フルニアリ、決シテ他ノ目的ノ爲メニ使用セラルルモノニアラズ。

三、鐵道警察補助ノ爲メ必要ナル日本教習ハ、會社之レヲ選定スルコトヲ得、但ノ支那政府之レヲ任命ス。

然ルニ三十日朝「バ」外相カラ日本ノ修正案ニ「ウキルソン」大統領ガ加筆シタ左記ノ案ヲ牧野男ニ送ツテ來タ其送附狀ニ同外相ハ此大統領案ハ大體ノ趣旨ニ於テ日本案ト差異ハナイ。唯二三字句修辭ノ變更ト條約取極ヲ引用セズニ各員ノ一致セル政策宣明ノ形式トナツテ居ルガ、實質上何等日本政策ノ變更トガ日本ノ權利又ハ日本國民ノ威嚴ヲ毀損スル所ハ無イカラ、此際之レニ同意シテ呉レルコトガ出來レバ、講和ノ全商議

ハ右ニテ幸ニ完了シ得ルダロウト加筆シタ。

日本全權委員ハ「ウキルソン」大統領ノ提起セル質問ニ對スル答辯トシテ左ノ通リ聲明セリ。

日本ノ政策ハ山東半島ヲ完全ナル主權ト共ニ支那ニ還附シ、獨逸ニ許與セラレ居タル經濟上ノ特權並ニ一般ニ行ハレ居ル條件ノ下ニ青島居留地ヲ設定スル權利ノミヲ留保スルニアリ。

鐵道所有者ハ運輸ノ安全ヲ保障スル爲メニノミ特別警察官ヲ使用スベシ、此等警察官ハ此以外ノ目的ノ爲メ使用セラルルコトナシ。警察隊ハ支那人ト、及鐵道會社ノ取締役ガ選擇シ、支那政府ニ於テ任命スベキ日本人教習トヨリ成ル。

我方ハ此際强ヒテ日支條約取極ヲ援用シ、米國ニ之ヲ承認サセル形式ヲ採ルト、徒ラニ議論ノミ多クテ纏マリガ惡イカラ、我主張ハ其儘ニシテ之レニ觸レヌ方ガ簡單ダ、左スレバ其他ハ字句ノ修正ニ過ギヌカラ、「ウキルソン」案ヲ承諾スルニ決シ、斯クシテ牧野珍田兩全權ハ三十日ノ首相會議ニ臨ンダ。

日支條約取極ノ効力問題

三十日ノ首相會議デ我方カラ「ウキルソン」案ニ同意シタノデ、新聞發表ノ問題ハ簡單ニ片付イタガ、警察問題ニ關スル「ウ」大統領ノ底意ガ奈邊ニアルカヲ突止メテ置カヌト、我對支政策ニ由々敷影響ヲ及ボシ得ルカラ、珍田全權ハ右公表文ノ諸件ヲ支那ガ實行セヌ場合、例ヘバ支那ガ警察力ノ構成又ハ日本人教官ノ使用ニ助力セザル場合ニハ、日本政府ハ一九一八年ノ取極ニ立歸ル權ヲ留保スルモノナルヲ茲ニ言明シ置クト

述ベタラ、「ウ」大統領ハ其時ニハ既ニ國際聯盟ガ成立シテ居ルカラ、之レニ附託シテハ如何ト問フタ、珍田全權ハ萬一斯カル問題ガ聯盟ニ送ラレルトシテモ、日本ハ最後ノ決定ニ際シ、其權利ヲ日支條約取極ノ基礎ニ置クノ權ヲ留保サセルヲ得ヌ、支那ガ忠實ニ行動スレバ問題ナキモ、之レガ實行ヲ拒絶スル場合、日本ノ賴ルベキ唯一ノ途ハ日支取極ヲ楯トスルニアルノミダト答ヘタ。「ウ」大統領ハ一九一八年ノ取極ハ其根據ヲ二十一個條要求ニ置クモノデアルガ、米國政府ハ該要求ニハ痛ク惱マサレタカラ、今回ノ協定ト該要求トノ關係ガ薄イ程好都合ダ、余ハ日本ハ最近數年ノ交換公文ヲ引證セヌコトヲ望ム、本問題ヲ聯盟ニ持出ス場合ニハ戰爭ノ威嚇ヲ以テセズ、只友好的協議ノ爲メニシ、理事會ニ於テ支那ニ對シ、必要ナル請求ヲ爲スコトトシタイト苦笑ス。牧野全權ハ斯カル場合ノ起ラヌコトヲ切望スルガ、日本ノ關スル限リ支那トノ取極ヲ無視スルコトハ出來ヌト述ベ、珍田全權ハ大統領ハ右取極ノ效力ヲ「アドミット」セズ日本ハ之ヲ爲ス點ニ於テ難關ヲ生ズルノダガ、自分ハ唯日本トシテハ右取極ヲ楯トセザルコトノ德義上ノ拘束ヲ受ケヌトノ事實ヲ指摘スルノミダト附加ヘタ、大統領ハ淡泊ニ謂ヘバ以上余ノ述ベタ處ハ少シテモ日支間ニ交換サレタ公文ノ承認ヲ「アドミット」シタモノトシテ解釋サル可ラズト主張セザルヲ得ヌト應酬シ、珍田全權更ニ日支取極ヲ楯トセヌコトノ道義上ノ效力ヲ除去スル爲メ、自分ハ如上ノ陳述ヲシタノダト繰返シ、是レデ日支條約取極ノ效力問題ニ關スル論議ハ終ツタ。以上ハ會議錄ノ忠實ナ飜譯デ、何故斯ク詳シク書イタカト云ヘバ、後日再ビ此問題ガ起キタ時米國側デ首相會議ノ論議ヲ引用シタカラ、追テ夫レヲ述ベル際ノ考證ニ資スル爲メニ外ナラヌ。

山東條項成立

斯クシテ山東問題ハ解決シタカラ、珍田全權ハ曩ニ提出シタ山東條項二個條ニ代ルベキ新案ヲ配付シ、修正ニ關スル必要ナ說明ヲ與ヘ首相會議ヲ通過シタ、是レガ「ヴエルサイユ」條約第百五十六條及第百五十七條デアル。何故我方カラ新案ヲ出シタカト云フニ、舊案ハ日本ノ要求シテ居ル意味ヲ完全ニ盡シテ居ラヌコトヲ發見シタカラ、筆者ガ「フロマジョー」氏ノ智惠ヲ借リテ之レヲ修正シ、此佛文條項ヲ「ハースト」氏ニ英譯シテ貰ツタノデアル、從テ山東條項ハ佛文ノ方ガ原案デアル。然ルニ我全權カラ提出シタ條項ハ基本條項タル二個條丈ケデ、吾々ガ相當重視シテ居タ引渡地域ニ關スル行政其他ノ書類交付殊ニ獨逸ガ支那ト結ンダ諸條約取極等ノ通告ニ關スル規定ハ加ヘテ無カツタ、此條約取極等ヲ通告スル義務ヲ獨逸ニ負ハセヨウトシタノハ、日露戰後ノ經驗カラ支那ノ通告丈ケニ信賴スルノガ甚ダ危險ナコトヲ知ツタカラデアルガ、此一個條ヲ首相會議ニ掛ケルト又山東問題ノ論議ニ花ガ咲ク虞レモアルシスルカラ、筆者ガ起草委員會ニ極メテ平凡ナ技術的條項トシテ之レヲ持出シ其挿入ヲ請求シタ、「フロマジョー」氏ト「スコット」氏トハ容易ニ承諾シタガ、「ハースト」氏ハ第二項ヲ見テ之レハ土地割讓ニ伴フ普通ノ規定デハ無イカラ首相會議ノ決定ヲ經ルヲ要スト强硬ニ主張シタ、「ハ」氏ノ云ヒ分ニ無理ノ無イコトヲ最初カラ知ツテ居ル筆者ハ一寸當惑シタガ日本ハ是等ノ條約取極ハ既ニ支那カラ入手シテ居ルカラ、夫レ程必要デモナイガ、支那文デ書イタモノハ意義ガ明晰デナイ點ガ少クナイタメ、更ニ獨逸文ノヲ入手シタイト思フニ過ギヌト辯解シ、漸ク折合ガツイテ

挿入シタノガ第百五十八條ノ規定デアル。

前記ノ「ステートメント」ヲ公表スルニハ何カ好イ機會ガ無クテハ困ル、夫レ故暫ク其儘ニシテ置イタラ五月四日支那側ヨリ聲明書ヲ新聞ニ出シタノデ、我地位ヲ一般ニ說明スル體裁デ之レヲ發表シタ、卽チ左ノ通リデアル。

牧野男爵ハ山東問題ニ關スル日本ノ立場ヲ闡明セムガ爲メ、路透（聯合通信又ハ「ハヴアス」通信）社員トノ會談ニ於テ左ノ說明ヲ與ヘタ。

日本ノ政策ハ山東半島ヲ完全ナル主權ト共ニ支那ニ還附シ、獨逸ニ許與セラレ居タル經濟上ノ特權並ニ一般ニ行ハレ居ル條件ノ下ニ居留地ヲ設定スル權利ノミヲ留保スルニ在リ。

同男爵ハ又追テ日支合辨事業トナルベキ鐵道ニ關シ、左ノ通リ言明セリ。

鐵道所有者ハ運輸ノ安全ヲ保障スル爲メニノミ特別警察官ヲ使用シ、此等警察官ハ此以外ノ目的ノ爲メ使用セラルルコトナク、又該警察隊ハ支那人ト、及鐵道會社ノ取締役ガ選擇シ支那政府ニ於テ任命スベキ日本人教習トヨリ成ル。

山東問題圓滿解決要因

當時講和會議ノ難關カ「フキユーメ」問題ト山東問題トノ二ツダツタコトハ遍ク人ノ知ル所デアル、言論界ノ一部デハ「フキユーメ」問題デ伊國全權ガ引揚ゲタ、又日本ニ引揚ゲラレテハ講和會議ノ破滅ダカラ、

日本ヲ足止メスル爲メニ其要求ヲ容レタノデ、山東問題ヲ日本ノ意思通リ解決ニ導イタ主動力ハ伊太利ダト唱ヘタ、然シ此觀察ハ極メテ皮相デアル、「フキユーメ」ハ伊國ガ參戰當時英佛露ト結ンダ倫敦條約中ニ其所得地域トシテ豫見シテ居ラヌ位ノ場所故、假令伊太利ノ態度ガ如何ニ强硬ニ見ヘテモ、講和會議ヲ脫退シテ迄ヒレヲ爭フ程ノ價値ハ無イ地方ダカラ、結局折合ガ付キ得ル問題デ、又英佛二國モ「フキユーメ」ノ取得ニ伊太利ヲ支持スル約束ハシテ居ラヌカラ、是等ヲ綜合考察シテ「ウキルソン」大統領ハ高壓手段ニ出テ、夫ノ「ステートメント」ノ如キモノマデ敢テ發表シタノダト思フガ、山東問題ニ對スル日本ノ立場ハ全ク之レト異ツテ居ル、青島ハ我將卒ノ血ニ依ツテ攻略シタ地域デ、英佛伊三國共ニ之レヲ自由ニ處理スル專權ヲ日本ニ認メテ居ルノデアル、若シ米一國ノ異議ノ爲メニ我主張ガ蹂躙サレル樣ナ羽目ニ成ツタラ、日本ノ進退ヲ決スル前ニ講和會議其モノノ處決ヲ促スベキデ、又英佛トシテハ事態ヲ斯クノ如ク導カヌ樣ニ處理スル義務ガアルノダカラ、山東問題ノ圓滿解決ニ付テハ初メカラ相當樂觀シ得タノデアル、殊ニ本件ニ對スル我主張ガ一蹴サルル場合、其影響スル所ハ單ニ山東ノミデハ無ク、大正四年日支條約ノ全般ニ及ビ滿洲ニ於ケル我權益ニ迄亘ルノデアルカラ、山東問題ニ關スル斷乎タル我決心ハ、米國側ニモ能ク飲ミ込ミ得ベカリシ筈デアル。何レニセヨ「ウキルソン」大統領ノ「フキユーメ」問題ニ對スル態度ト山東問題ニ對スル夫レトハ非常ニ相違シテ居タガ、米國ニ利害アル個條ニ付テ丈ケナラ兎モ角ク、締約當事者ニ非ザル彼ガ、恰モ超國家的元首ノ如キ態度ヲ以テ日支兩國間ノ條約ノ效力ニ容喙シタノハ餘リニ失當ダト考ヘル。假リニ其干涉ハ高遠ナル理想カラ出發シタノダトシテモ、結果ガ極東ノ和平ヲ招來セズニ却テ反對ノ歸趨ヲ示シタノダカ

ラ、現實ニ卽セヌ机上ノ推理ハ百害アツテ一益ナキノ歎ヲ禁ズルコトガ出來ヌ、「フキユーメ」問題ニシテモアレ程天下ヲ騷ガセナガラ、其歸着ハ果シテ如何デアルカ、筆者ハ多ク語ルヲ好マヌ、唯眞摯極東ノ靜謐ヲ希フノ餘リ此數行ヲ書イタニ過ギヌ。

第三十一章　講和會議ニ於ケル山東問題（四）

山東條項ニ對スル支那ノ抗議

五月一日午前ノ三頭會議ハ山東問題決定ノ次第ヲ「バルフオア」外相ヨリ支那側ニ通告サセルニ決シタノデ同外相ハ卽日口頭デ山東條項ノ大意ヲ告ゲ、併セテ日本ハ經濟的權利ヲ保有スルノミデ、獨逸ノ有セシ政治上ノ權利ハ悉ク支那ニ還附サレルコト等首相會議了解ノ概略ヲ語ツタ。之レニ對シ陸徵祥外交總長ハ三頭會議議長ニ宛テタ五月四日附書翰デ、支那參戰ノ結果獨逸トノ條約ハ消滅シタコト、日支條約取極ハ暴力ニ依ツテ締結ヲ餘儀ナクサレタモノデアルコト等ヲ擧タ後、山東問題ノ決定ニ對シテ正式ニ抗議スル旨ヲ聲明シタガ、對獨講和條約要領報告ノ爲メニ開カレタ五月六日ノ第六回總會議ノ席上陸總長ハ、更ニ山東條款ガ支那ノ權利ト正義及安寧ニ充分ノ考慮ヲ加ヘアラザルコトヲ述ベ、右解決ニ對シ修正ヲ得ムトノ希望ヲ以テ正式ニ抗議シテ置イタガ、若シ其修正ニシテ行ハレヌ場合ニハ支那代表ハ山東條項ニ對シ今ヨリ留保ヲ爲サザルヲ得ズト認ムト聲明シタ。當夜筆者ハ起草委員會デ對獨講和條件最後ノ校合ヲシテ居タラ、支那ノ書記官ガ米國起草委員ヲ訪ネテ來テ、山東條項ノ正文ヲ貰ツテ行クノヲ垣間見タ。

留保調印ノ聲明